

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「マックとコカがコラボ企画、ひいきのJクラブ勝てば割引」
- 2) 「ドンク、国産小麦で農業応援」
- 3) 「心斎橋に都心型老人ホーム“花咲” - 利便性と高級感売りに」
- 4) 「道頓堀川遊歩道、“とんブラ 2012” 6月3日に開催」

1) 「マックとコカがコラボ企画、ひいきのJクラブ勝てば割引」

日本マクドナルドと日本コカ・コーラは 15 日、サッカーJリーグの試合結果に応じて割引クーポンを提供する共同企画「マイJクラブプログラム」を始めた。コカ・コーラ社が運営する会員制ウェブサイトの会員になり、好きなJリーグのチームを登録。そのチームが勝つと、ビッグマックセットやコカ・コーラなど、マクドナルドで使える割引券がもらえる。マック独自の携帯電話向け会員制度の紹介もする。「本当の狙いは、両社の会員数を増やすこと」と両社の広報担当者は口をそろえる。会員になるには、性別や年齢、住所の入力が必要で現在、コカの会員は 1100 万人超、マックは 3000 万人超いる。合同企画の相乗効果でともに会員が増えれば、情報の精度が増し、地域の客層に合わせた効果的なキャンペーンをウェブ上で手軽に打ち出せるようになるからだ。

「ファン」を抱える何かと小売・流通業とのタッグは大きな力を発揮すると思う。メジャーなスポーツだけに限らず、地域のスポーツリーグ等、様々な形で取り入れられそうな仕組みだ。相互の活性化には良いアイデアだと思う。

2) 「ドンク、国産小麦で農業応援」

ベーカリーブランド「ドンク」は、「ニッポン再発見！- 日本の大地が育んだ国産小麦を味わう-」と題し、国産小麦のみを使った新作パン 14 品の販売を 118 店の限定店舗で行った。

国内食料自給率向上への関心の高まりから、日本の農業を応援し国産小麦の可能性を探る取り組みとしてスタートした同企画。今回使う国産小麦は、高岡市で栽培したパン用小麦「ゆきちから」。同品種はタンパク質含有量が高いことから、国産小麦の中では製パン性に優れ病害虫にも強いという。

2011 年も、同ブランドでは同品種を使ったパンを一部の店舗で期間限定販売し好評を得た。今年は国産小麦ならではの味を生かし、「世代を問わず愛されるおいしさ」をコンセプトに商品開発し、商品ラインアップを刷新。展開店舗、販売期間、取扱品数の全てを拡大し、バラエティー豊かに展開。

モチットとした食感のベーグルにゴマやユズ、ほうじ茶を練り込んだ「国産小麦のベーグル」をはじめ、シンプルな「国産小麦の味わい食パン」、ミルク風味のほんのり甘い「国産小麦のデニッシュスティック（ミルク）」など、ベーシックタイプのこだわり商品から、ひと工夫取り入れた企画商品も半月替わりで展開。

国産小麦を使ったパンの需要が高まる中、「小麦栽培へ取り組む生産者と、ドンクのパン職人の技術力がタッグを組み、全国規模での展開することができた。一人でも多くの方に国産小麦パンのおいしさを味わっていただきたい」とドンク広報担当者。

商品のネーミング一つ一つに“国産小麦の”という文言が付いていて、消費者に分かりやすく展開されている。おいしさもさることながら、国内農業の応援に繋げようとするコンセプトが人気を博したのであろう。家計支出でパンが米を抜くといったニュースもあったが、こうした取り組みによりさらにパンに注目が集まるのではないか。

3) 「心斎橋に都心型老人ホーム“花咲” - 利便性と高級感売りに」

大阪・ユニクロ心斎橋店近くに5月16日、都心型老人ホーム「花咲 心斎橋」がオープンした。

ライク（八尾市）が運営する老人ホーム「花咲」の4つめの施設。同社は2005年、八尾に「花咲」をオープン。2007年には「花咲 池田21」（池田市）と「花咲 浜寺」（堺市）をそれぞれ開設した。いずれも駅から徒歩圏内の立地が特徴。大阪市内への進出は今回初めて。入居対象者は要支援・要介護者。個室のみで定員は155人。親族との面会に利用できる多目的スペースや、普段の食事と同フロアの交流を目的とした食堂スペース、屋上庭園などを備える。

都心部の景観に合うようこだわった内装・外観も特徴の一つ。高島屋のグループ企業「高島屋スペースクリエイツ」が空間設計をプロデュースし、石張りを採用した茶系統で統一感のある施設に仕上げた。車いす、寝たきりにも対応する専用バス付きの浴室や広さのあるエレベーターも備える。居住スペースは約10畳の広さで、広めのトイレと介護ベッド、テレビ、クローゼットなどが付く。

同社社長の嶋野雅祥さんは「老人ホームといえば郊外のイメージが強いが、花咲は駅から徒歩圏内という利便性と快適さにこだわっている。今回こうした大阪の都心部に施設をオープンすることができ、花咲ならではの強みをさらに出していきたい」と話す。都心にあることのメリットについては「親族が立ち寄りやすい場所として、また従業員も勤めやすい場所として、全員が満足できる環境では」とし、「むしろ高齢者こそ都心に住むべきではないかと考えている。刺激があることで、心身ともに充実したセカンドライフを送れるのでは」とも。

先週のスタディでも取り上げた人口動態ビジネスの一つ。

これから確実に増えて行くシニア世代の顧客獲得に各社様々な取り組みをしていくことだろう。近くを通ることがあったらどのようなものか見てみたい。

4)「道頓堀川遊歩道、“とんブラ2012”6月3日に開催」

南海電鉄は、「なんばのまちづくり推進」を進めている。

その一環として、大阪市建設局が公募・選定した道頓堀川遊歩道（とんぼりリバーウォーク）の管理運営事業者として、管理運営を行っている。

そして6月3日（日）にオープニングイベント「とんブラ2012」を開催する。「とんブラ」（とんぼりエリアを、気ままにブラブラ歩いて楽しむこと）をキーワードに、とんぼりリバーウォーク全域において「100mリボンカット」などの地域の人々と一体となったイベントを展開する予定だ。ロゴデザインも公募し、決定した。

今後も、多くの人々が行き交う大阪の象徴、道頓堀エリアの活性化を進めていく方針だ。

「とんブラ2012」イベント概要について

1. 名称：とんぼりリバーウォークオープニングイベント「とんブラ2012」
2. 日時：平成24年6月3日（日） 10：00～17：00
3. 場所：とんぼりリバーウォーク全域
4. 内容：
 - （1）100mリボンカットセレモニー&フォトセッション
 - （2）水上パレード
 - （3）スタンプラリー
 - （4）とんぼりフェスタ【同時開催】

長らく工事を行っていた道頓堀川遊歩道、川の水質改善も積極的に行い「悪臭がする」といった話も最近聞かない。

長い心齋橋筋商店街の息抜きスポットとして重宝されそうだ。また、その長さを活かして様々なイベントにも利用できそうなので、これからの動きが楽しみだ。